

# 平安宮豊楽殿跡出土品

- 重要文化財指定を受けて -

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



史跡平安宮豊楽殿跡出土 緑釉軒平瓦・軒丸瓦



豊楽院跡試掘調査出土 緑釉軒平瓦



寄贈品 金銅製垂木先飾金具



史跡平安宮豊楽殿跡出土 鬼瓦

平成17年6月9日、国の重要文化財指定品の一つに「平安宮豊楽殿跡出土品」が選ばれました。

ひとことで重要文化財といっても文化財は有形文化財・無形文化財・民俗文化財など6つの分野に分かれており、豊楽殿出土品は有形文化財の美術工芸品に属しています。美術工芸品はさらに絵画・彫刻・工芸品・書籍・古文書・考古資料・歴史資料に細分され、豊楽殿出土品のような発掘出土品は

考古資料に含まれます。京都市では二条城障壁画等の美術工芸品の重要文化財は所有していますが、出土品が文化財指定を受けるのは今回が初めてです。

さて、今回指定された物品が出土した豊楽殿とは、平安時代に外国の使者を迎えての宴会、元旦節会、大嘗祭などの国家的饗宴を行なう施設である豊楽院の正殿にあたります。国家的儀式である天皇即位や正月の朝賀を行なう大極殿

を中心とする朝堂院と豊楽院とは表裏一体の関係にあり、遷都からやや遅れて延暦19年(800)頃、朝堂院の西側に建設されました。豊楽院の大きさは南北約400m・東西約170mで、東と西にはそれぞれ3つの門を開き、南には正門である豊楽門がありました。

豊楽殿は、単層寄棟造りで、東西桁行9間(約39m)・梁間4間(約16m)基壇規模では、東西約45.6m南北23.8mあり、平安宮内

に造られた殿舎では大極殿（東西桁行11間・梁間5間）に次ぐ規模を誇っていました。

昭和62年、この豊楽殿の北西部約460m<sup>2</sup>を発掘調査し、凝灰岩製壇正積基壇跡・階段跡・礎石据え付け穴・地鎮跡などを発見し、過去の調査成果と合わせて豊楽殿の建物規模と位置を確定することができました。

平安時代の国家権力の象徴ともいえる豊楽殿の遺構発見は、考古学・歴史学・建築史学などの見地から極めて学術的価値が高いため、調査地は平成2年に国の史跡指定を受けた後、公有化し、建物の外周を明示した仮整備を行なって現在に至っています。

今回指定を受けた豊楽殿出土品は全部で674点ありますが、その内の663点がこの史跡指定地内での発掘調査(A)で出土した遺物です。また、この発掘調査中に近くに住む吉田英夫さんから寄贈を受けた自宅敷地内出土(C)の金銅製垂木先飾金具や瓦など10点と、平成10年に近辺で実施した試掘調査(B)で出土した緑釉軒平瓦1点が含まれています。

ところで、史跡の指定が平成2年で重要文化財の指定が平成17年と、指定時期に大きな開きがあります。昭和62年の調査で出土した瓦などの遺物は整理箱に908箱もあり、調査後に概要報告書作成のために一定の整理が行なわれたものの、その後は詳細な整理を行なえないまま、優品を除いて収蔵庫に保管されていました。重要文化財の指定を受けるためには、908

箱の中身を総点検して指定候補を抽出し、1点1点の詳細な目録の作成が必要です。そのための整理を平成15・16年度に行なうことができました。整理に当たっては、特定の瓦類だけを候補品とするのではなく、できる限り豊楽殿の構成要素を網羅し、しかも歴史の変遷も考慮して選別されました。その結果、緑釉瓦など674点を選定し重要文化財指定を受けました。

さて、平成以降に重要文化財指定を受けた考古資料の時代別割合を調べると、縄文時代から古墳時代までの出土品が全体の80パーセントを超え、先史時代への偏重が認められます。そのような傾向の中で、平成14年には京都府聚楽第跡出土金箔瓦（京都府埋蔵文化財調査研究センター保管）が桃山時代の京都の象徴として重要文化財に指定され、今回さらに豊楽殿出土品が平安時代の京都を代表する遺物として指定されたことに意義深いものがあります。

平安京遷都から1200年、つねに政治・文化の中心であった京都では、その歴史の痕跡が土の中にまだまだ沢山残されています。また、掘り出されて消滅した遺構も数多くありますが、そこから出土した遺物は歴史の証として保管し次世代へと引き継がれていきます。そのなかで保存状態が良く、歴史的にも価値が高い緑釉の鴟尾や軒瓦などは、豊楽殿を象徴する遺物として考古資料館などで以前から展示公開してきましたが、これは指定品全体の1%にもおよびませんでした。

今回指定された豊楽殿出土品674点は、平安時代前期から中期の瓦を中心とする遺物群で、小破片も数多く含まれていますが、創建されて以降、幾度もの修築と再建を繰り返した豊楽殿の歴史を伝える学術資料として、高く評価されたものといえるでしょう。

（京都市埋蔵文化財調査センター  
長谷川 行孝）

| 項目     | 点数  |     |
|--------|-----|-----|
| 緑釉・三彩瓦 | 鴟尾  | 13  |
|        | 瓦   | 2   |
|        | 製斗瓦 | 106 |
|        | 軒丸瓦 | 55  |
|        | 軒平瓦 | 135 |
|        | 丸瓦  | 111 |
| 小計     | 422 |     |
| その他の瓦類 | 瓦   | 3   |
|        | 製斗瓦 | 4   |
|        | 軒丸瓦 | 86  |
|        | 軒平瓦 | 103 |
|        | 丸瓦  | 12  |
|        | 平瓦  | 20  |
|        | 文字瓦 | 7   |
|        | 埴   | 2   |
| 小計     | 237 |     |
| 白色土器   | 3   |     |
| 金属製品   | 3   |     |
| ガラス玉   | 1   |     |
| 基礎石材   | 8   |     |
| 合計     | 674 |     |

重要文化財指定品



豊楽殿の位置と調査地